



優良住宅部品性能試験方法書

Methods of Testing Performance of
Quality Housing Components

樹脂製住宅用床束

Plastic floor post

BLFT FP:2019

2019年7月19日公表・施行

一般財団法人 **ニセーリビエツク**

I. 性能試験項目

優良住宅部品評価基準において、試験により性能等を確認する項目及び試験方法等は下表によるものとする。

性能試験項目名	性能試験方法	備考	頁
1. 積載荷重に対する強度試験	BLFT FP-01 (別表1)	第三者性を有する機関等による試験の実施	1
2. 積載荷重に対する剛性試験	BLFT FP -02 (別表2)		2
3. 積載荷重に対するクリープ性能試験	BLFT FP -03 (別表3)		3
4. 繰り返し衝撃力試験	BLFT FP -04 (別表4)		4

II. 試験体

試験体の種別、形状、個数については性能試験方法で示すとおりとする。ただし、個数の下限は当財団の判断によるものとする。

また、試験体は認定申請時に提出された設計図書の図面、仕様書の内容と同一のものであることとし、差異のある場合は、追加試験の要請もあり得る。

III. 試験結果の提示

定量的に表示しうるものは、図表化を図ること。また、外観観察については具体的に、何が、いつ、どのような状態になったかを試験目的にそって簡潔に記述すること。なお、試験体、試験装置は詳細図を添付し、また、試験結果を示す有効な場合は写真を添付すること。

優良住宅部品性能試験方法書（樹脂製住宅用床束）

別表 1

(1) 試験方法名称	積載荷重に対する強度試験	試験番号	BLFT FP -01
(2) 関連要求項目および性能	機械的な抵抗力及び安定（鉛直荷重に対する許容耐力を求める。）		
(3) 試験の目的	積載荷重に対する強度（許容耐力）を調べる。		
(4) 試験体	種別 レベル	高さ調整可能範囲で最大寸法とする。	個数 3体以上
(5) 試験方法	(5-1) 概要	床束に鉛直荷重を加え、最大荷重を求める。	
	(5-2) 試験機 試験装置 測定装置	加圧装置、変位計等	
	(5-3) 試験体の 前処理方法・条件		
	(5-4) 試験方法の詳細	<p>(1) 床束を標準施工と同様な方法で基礎又はこれに相当する部材に固定する。</p> <p>(2) 加圧装置により、「床束の中心」及び「1/3偏心位置」に鉛直荷重を徐々に加え、破壊に至るまで加圧する。</p> <p>(3) 加圧中及び破損の状況を観察するとともに、最大荷重（破壊荷重）を求める。</p> <p>(4) 最大荷重より許容耐力を求める。</p>	
(6) 試験結果の表示	加圧中及び破壊時の状態及び最大荷重（破壊荷重）		
(7) 要求性能	許容耐力が負担床荷重以上であること。		

優良住宅部品性能試験方法書（樹脂製住宅用床束）

別表

2

(1) 試験方法名称	積載荷重に対する剛性試験	試験番号	BLFT FP -02
(2) 関連要求項目および性能	機械的な抵抗力及び安定（鉛直荷重に対する変位量を求める）		
(3) 試験の目的	積載荷重に対する変位量が基準値以下であるかどうかを調べる。		
(4) 試験体	種別 レベル	高さ調整可能範囲で最大寸法とする。	個数 3体以上
(5) 試験方法	(5-1) 概要	床束に鉛直荷重を加え、変位量を求める。	
	(5-2) 試験機 試験装置 測定装置	加圧装置、変位計等	
	(5-3) 試験体の 前処理方法・条件		
	(5-4) 試験方法の詳細	<p>(1) 床束を標準施工と同様な方法で基礎又はこれに相当する部材に固定する。</p> <p>(2) 加圧装置により、「床束の中心」及び「1/3偏心位置」に鉛直荷重を徐々に加え、負担床荷重時のそれぞれの変位量を測定する。</p> <p>[試験体数6体以上の場合の補正] 試験体数を6体以上とした場合、「試験体のバラツキを考慮した係数の値」を75%信頼水準の5%下限値とすることができる。 (木構造設計規準・同解説（日本建築学会）による)</p> <p>変位量 $T = X - K S$</p> <p style="text-align: right;"> T : 変位量 K : 試験体数に依存する定数 S : 試験により求められた標準偏差 X : 試験により求められた変位量の平均値 K : 2.336（試験体数6体の場合） </p>	
(6) 試験結果の表示	(1)負担床荷重時における、中心位置載荷時及び1/3偏心位置載荷時の変位量。		
(7) 要求性能	中心位置載荷時の変位量が3mm以下、1/3偏心位置載荷時の変位量が4mm以下		

優良住宅部品性能試験方法書（樹脂製住宅用床束）

別表

3

(1) 試験方法名称	積載荷重に対するクリープ性能試験	試験番号	BLFT FP -03
(2) 関連要求項目および性能	機械的な抵抗力及び安定（鉛直荷重に対するクリープ性能を求める）		
(3) 試験の目的	積載荷重に対するクリープ性能（変位量）が基準値以下であるかどうかを調べる。		
(4) 試験体	種別 レベル	高さ調整可能範囲で最大寸法とする。	個数 3体以上
(5) 試験方法	(5-1) 概要	床束に鉛直荷重を加え、クリープ性能（変位量）を求める。	
	(5-2) 試験機 試験装置 測定装置	加圧装置、変位計等	
	(5-3) 試験体の 前処理方法・条件		
	(5-4) 試験方法の詳細	<p>(1) 床束を標準施工と同様な方法で基礎又はこれに相当する部材に固定する。</p> <p>(2) 加圧装置により、床束の中心に負担床荷重相当の鉛直荷重を840時間以上加え、変位量を測定する。</p> <p>(3) 変位量の測定値の対数グラフから、50年相当の推定変位を求める。</p> <p>[試験体数6体以上の場合の補正] 試験体数を6体以上とした場合、「試験体のバラツキを考慮した係数の値」を75%信頼水準の5%下限値とすることができる。 (木構造設計規準・同解説（日本建築学会）による)</p> <p>変位量 $T = X - K S$</p> <p style="text-align: right;">T : 変位量 K : 試験体数に依存する定数 S : 試験により求められた標準偏差 X : 試験により求められた変位量の平均値</p> <p style="text-align: right;">K : 2.336（試験体数6体の場合）</p>	
(6) 試験結果の表示	負担床荷重による変位量		
(7) 要求性能	50年相当の推定変位量が3mm以下		

優良住宅部品性能試験方法書（樹脂製住宅用床束）

別表

4

(1) 試験方法名称	繰り返し衝撃力試験	試験番号	BLFT FP -04
(2) 関連要求項目および性能	機械的な抵抗力及び安定（繰り返し耐衝撃力を求める）		
(3) 試験の目的	衝撃力に対する剛性等を調べる。		
(4) 試験体	種別 レベル	高さ調整可能範囲で最大寸法とする。	個数 3体以上
(5) 試験方法	(5-1) 概要	繰り返し衝撃力を加え、剛性及び高さ調整機能等に異常がないかを調べる。	
	(5-2) 試験機 試験装置 測定装置	衝撃力加圧装置、	
	(5-3) 試験体の 前処理方法・条件		
	(5-4) 試験方法の詳細	<p>(1) 床束を標準施工と同様な方法で基礎又はこれに相当する部材に固定し、標準的な床組を構成する。</p> <p>(2) JIS A 1418-2:2000（建築物の床衝撃音遮断性能の測定方法）に基づく衝撃力加圧装置により、床板上に4KNの衝撃力を50,000回加える。</p> <p>(3) 本体各部、高さ調整機能等にゆるみ等の異常がないかを確認する。</p>	
(6) 試験結果の表示	本体各部及び高さ調整機能等の状態		
(7) 要求性能	支障のある変形がなく、高さ寸法調整機能等にゆるみ等の異常がないこと。		